



# 下大竹だより

第66号  
発行：下大竹自治会  
発行日：  
2022年4月1日

## 回覧

## 下大竹自治会2021年度第3四半期活動報告

10月	10日(日)	体育祭<中止>
	22日(金)	防犯パトロール<中止>
	24日(日)	南地区自治会長会議(会長対応)
	26日(火)	市政現況説明会(文化会館大ホール)
	30日(土)	10月度定例役員会
11月	7日(日)	八幡神社 新嘗祭(会長対応)
	14日(日)	ウォークラリー(体づくり)
	24日(水)	防犯パトロール
	25日(木)	南地区自治会長会議(会長対応)
	27日(土)	みかん狩りウォーク(体づくり)
		11月度定例役員会
12月	10日(金)	南地区自治会長会議(会長対応)
	14日(火)	ポイ捨てパトロール<中止>
	22日(水)	防犯パトロール
	25日(土)	集会所の大掃除
		12月度定例役員会
	26日(日)	花のアレンジメント



▲ みかん狩りウォーク

▼ 花のアレンジメント



## 八幡台集会所 3年後の改築に向けて話し合い

かねてより、集会所の建設等に向けた積立など、総会時でのご報告のとおり、伊勢原市が所有し、下大竹自治会が自治会館として管理活用している「八幡台集会所」は、老朽化が進んでおります。

市からは3年後(令和7年3月)には解体する計画であることが示されており、市と地主(八幡神社)、下大竹自治会の3者で話し合いを行なっています。

現時点における市の方針から、概ねの方向性は「下大竹自治会が所有する集会所として新築すること」が示されています。なお、地主からは無償で貸してもらえるとのこと、建築に当たっては市から一定の補助金が提供されることとなります。

市内にも同様なケースの自治会もありますが、不動産を取得したり資産を所有したりするためには、自治会の法人化が必要となります。また、防災対策に伴う自治会備品の管理や経費運営など、経済的な活動にも法人化は大切な方策活動です。

市では、膨らむ行政需要への的確な対応、全ての公共施設を現状のまま安全安心の状態に保つことの困難に対して、今を担う我々世代の責務として道筋を描き、着実に行動する公共施設等総合管理基本方針を平成27年3月に作成し推進しています。

この方針では、市有の自治会集会所について、自治会が自ら所有する集会所との公平性や地域の実情等を勘案した上で、廃止又は施設を地元自治会へ移管し、自発的な活動に対してより使い勝手の良いものへの転換を進めているものです。

今後、具体的な方針や対策につきまして、都度ご報告いたしますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

### ▼地震研修会での集会所利用風景



八幡台遺跡から岡崎城跡へ②

八幡神社と光明院

八幡台住居跡の南東隣には、老松に囲まれた東大竹の鎮守、八幡神社がある。かつて鐘楼(しょうろう)には源頼朝(みなもと)の(よりとも)が寄進したと言われ、伝えられる鐘がかけられていた。無銘のため来歴は定かではないが、鐘の形から推して少なくとも慶長(けいちょう)年間(一五九六〜一六一五)以前のものとされている。現在目にするのできる鐘は、昭和四六年(一九七一年)の市制施行を記念して地域の人々が新たに奉納したもので、古鐘は大切に保管されている。

八幡神社の南には、真言宗の神照山光明院(しんしょうざんこうみょういん)がある。かつては大山寺の末寺の一つであった。本尊の不動明王像と脇侍(きょうじ)の両童子像は大山寺から伝承したといわれをもち、その伝承のとおり、大山寺本尊の鉄造不動明王像、童子像に姿形がよく似ている。市内の仏像等彫刻調査の結果、江戸時代の制作であるが、大山寺に縁の深い鎌倉仏師(かまくらぶっし)が造像したのではないかと推察されていた。近年、この三体が解体修理され、像内より墨書(ぼくしょ)、納入品、願文(がんもん)が確認された。

四〇)に大山喜楽坊(きらくぼう)の賢空(けんくう)が願主(がんしゅ)となり、多くの施主を募り、寛永一八一年に開眼供養したもので、鎌倉仏師三橋左平次守延と伴匠三橋傳三郎ほかにより造られたことが判明した。徳川家光による大山寺造営の時期と重なり、大山信仰を知る上で貴重な文化財である。

また、境内には、かつて伊勢原小学校の前にあった大山道の道標が移設されている。文久二年(一八六二)に建てられたもので、正面に菩薩像(ぼさつぞう)が浮き彫りにされている。

今回は、岡崎城跡

抜粋 伊勢原市教育委員会 発行

「史跡と文化財のまち いせはら」